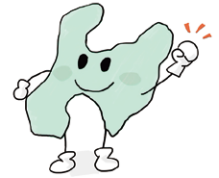


誰もが安心して暮らせる地域へ 地域づくりモデル地区の活動紹介



地域づくりモデル地区（利南、池田、薄根、川田地区）では、住民が参加し「地域の課題は？」「地域で守りたいもの、大切なものは？」「地域をこうしていきたい！」などの話し合いを続けています。

地域づくりのサイクル



話し合いの様子を、参加者の感想などを交えて紹介します。



沼田市地域づくり支援アドバイザーの櫻井常矢さん（高崎経済大学教授）を迎え、意見交換をしています

利南地区 「みんなが地域に対して良くしたいという気持ち」

利南地区は東西に長く、小中学校が2校ずつあります。中学校が1校だった世代と2校になった後の世代で利南地区としての一体感に対する考え方に違いは感じましたが、基本的な考え（根っこ部分）は大きく違わないと思えました。お互いの考え方や違いを理解し、話し合いを通じて十人十色の意見を聞くことができ、楽しく話し合えました。そして理想を共有していくと、みんなが地域に対して「良くしたい」という気持ちを持っているのだと感じ、うれしくなりました。多くの世代と一緒に意見交換する場、交流する場はとても大切だと感じています。

自然が豊かで、気温も温暖、改めて利南は住みやすい地域だと思えた

もっと近所の人と関わりを持ち、利南としての交流が必要かもしれないと考えさせられた



▲となみサミット

池田地区 「誰もが安心して住めるまちづくりを目指して」



▲池田ミニ座談会

池田地区は山と川に囲まれ、サクランボやブドウ、リンゴなどの果樹が豊富で、自然環境に恵まれた住環境にありながらも、役員の担い手不足、ひとり暮らし高齢者の増加、コミュニティーの希薄化などの課題があります。これからの暮らしを守り、地域コミュニティーを維持していくためにどうするか、今までの取り組みで足りなかったもの、次世代に残したいものなど、話し合いの中で気付きや学びがありました。さまざまな課題を自分事として捉え「誰もが安心して住めるまちづくり」を目指して取り組んでいきたいと思えます。

いろいろな人の話を聞いて、池田にはとても多くの宝物があることが分かった

形骸化している組織・事業のこれからを考える良いきっかけになった